

院は「衆徒」と称され、弟分として三院のいずれかに附属していた。宝林坊は、衆徒で華藏院弟山伏、高五拾貳石五斗六升、人数七人、内山伏式人、男三人、女式人であった。

年月日	差出所	宛所	補任対象
応安2・7・25	権律師幸俊	阿闍梨善賀	不明
嘉慶2・10・1	権律師幸嚴	小松房丸	不明
康応元・10・29	権僧都幸嚴	未代丸	慈恩寺供僧職坊々之地
応永3・12・27	阿闍梨幸尊 // 位舜	大隅律師永舜	新態野夏僧膳田
応永25・12・13	律師幸用	阿闍梨幸増	慈恩寺供僧職三味田
享徳3・4・14	阿闍梨幸調	阿闍梨善栄	慈恩寺供僧職御影供田
文明7・5・6	阿闍梨幸海	阿闍梨賢心	慈恩寺供僧職田池
延徳元・12・20	権律師幸海	宮内卿阿闍梨	慈恩寺供僧職坊地
延徳元・12・27	別当所大房丸	美濃松丸	慈恩寺西院田沢之内
元亀4・4・9	別当房幸暁	宝林房之	慈恩寺西院田沢之内
文禄5・12・26	别当(某)	宝林僧都	慈恩寺供僧坊地

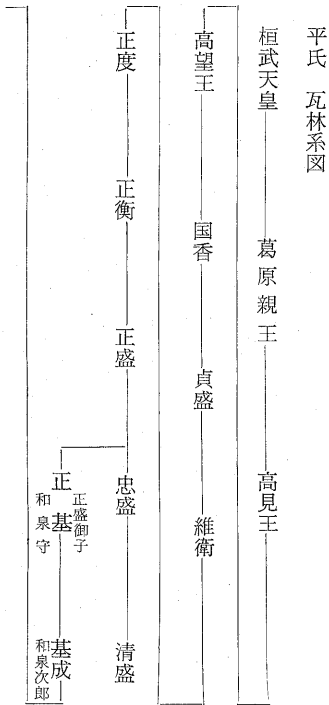
「末吉瓦林文書」雑録

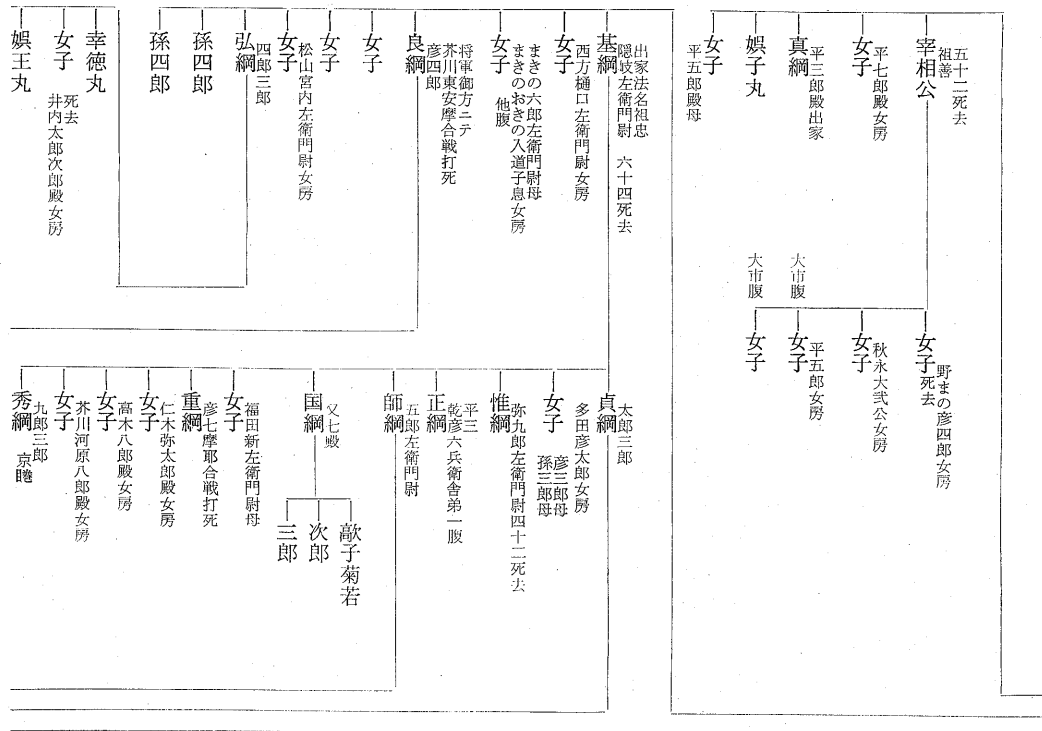
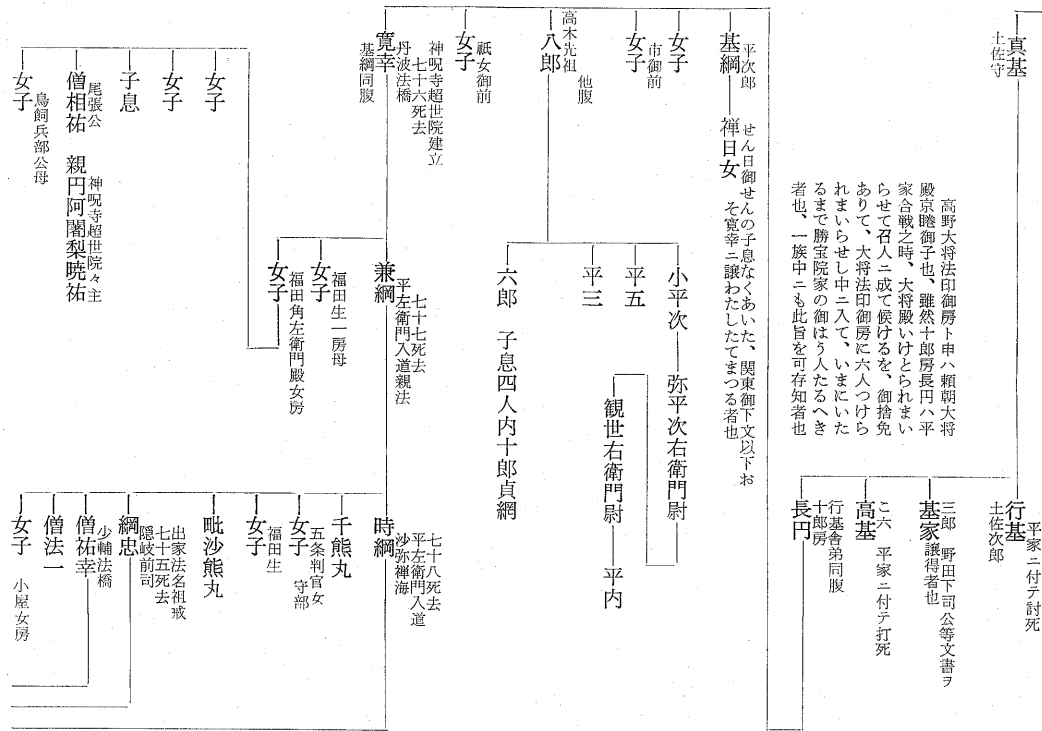
黒川 高明

本所は末吉勘四郎氏(大阪市住吉区平野仲町)所蔵の数千点に及ぶ文書・記録について、明治三十六年、同四十四年、昭和四年の三回にわたって調査を行なったが、そのうち比較的年代の古い五十七通の文書が影写され、「末吉文書」(架番号、三〇七一・六三一〇)として架蔵されている。しかし五十七通のうち左記の十四通と瓦林系図は末吉家相伝の文書とは系統を異にするもので、現在では「末吉瓦林文書」と末吉家で呼ばれるものに当る。

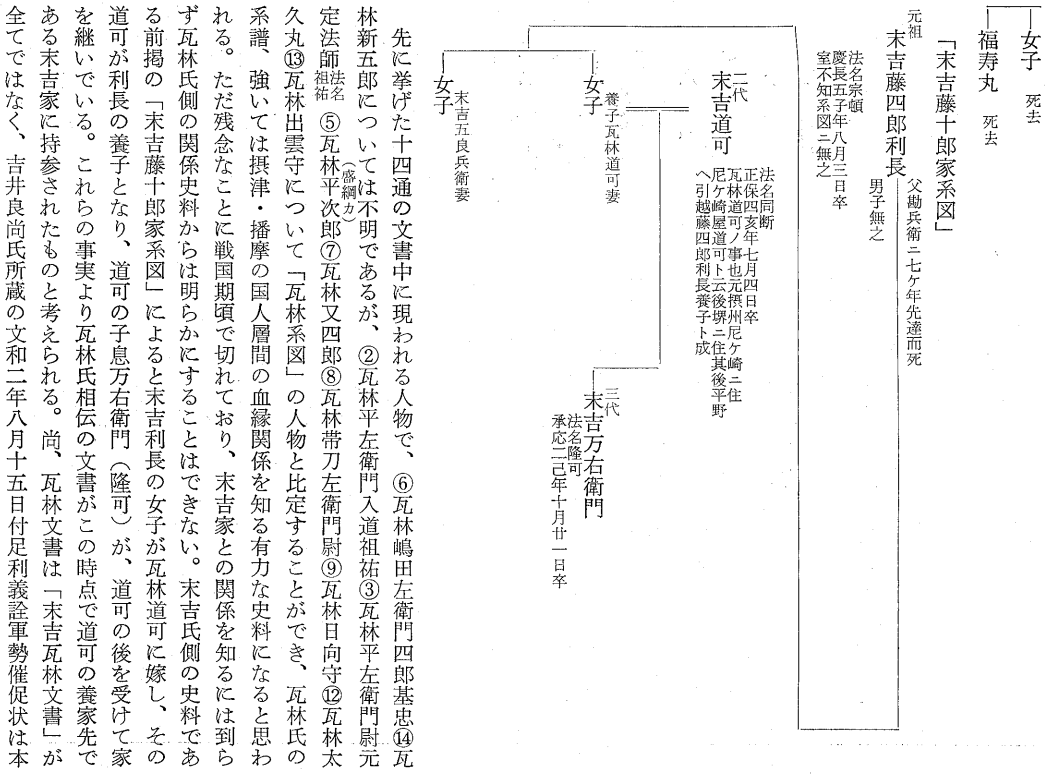
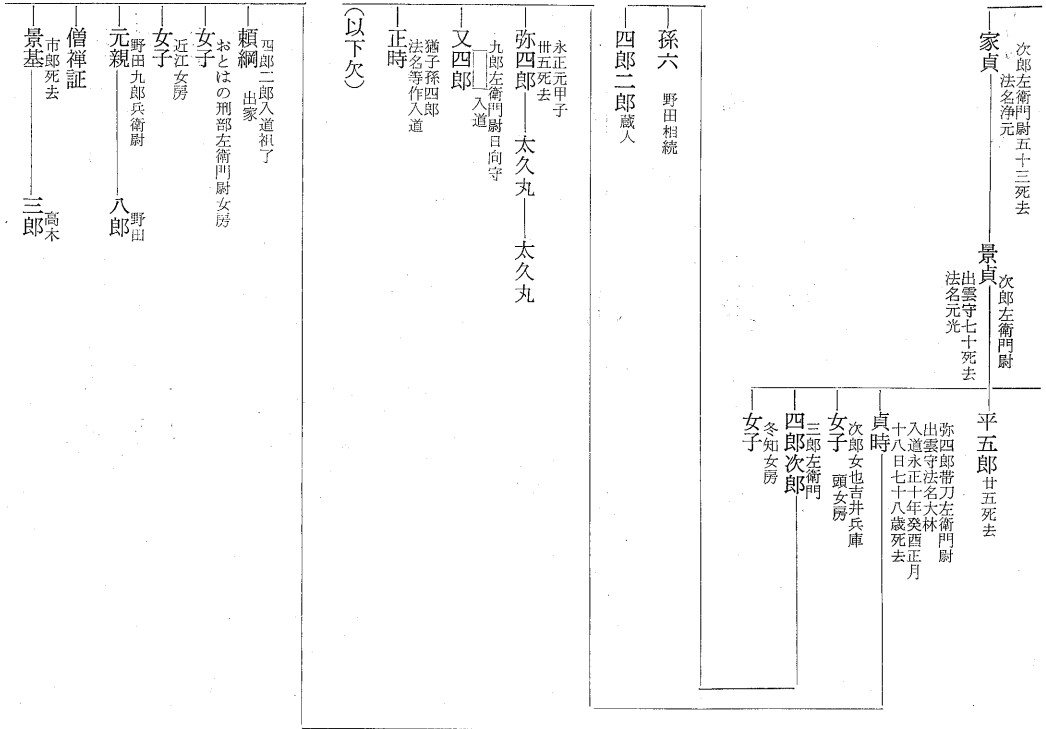
- ①源頼朝下文 寿永三年五月十八日
- ②足利尊氏感状 建武三年六月二十一日

- ③足利尊氏下文 建武四年十二月二十四日
  - ④棕橋庄々官施行状 貞和元年十二月日
  - ⑤足利尊氏軍勢催促状 観応元年十一月八日
  - ⑥瓦林基忠申状 延文五年六月日
  - ⑦細川晴元書状 二月十日
  - ⑧細川六郎軍勢催促状 三月五日
  - ⑨足利義種軍勢催促状 三月二十五日
  - ⑩細川澄元書状 卯月二十日
  - ⑪細川勝元添状 六月二十一日
  - ⑫細川晴元感状 十一月三日
  - ⑬細川澄元軍勢催促状 十一月十六日
  - ⑭細川澄元書状 十二月十四日
- 瓦林氏は摂津西宮地方を中心に活躍した国人であり、『西宮市史』には「末吉文書」「吉井良尚氏所蔵文書」「瓦林正頼記」(続群書類従所収)によってその詳細が述べられている。今度昭和四十七年八月と十一月に末吉勘四郎氏宅に赴き、所蔵文書の調査、撮影を行なった際「瓦林系図一巻」を新たに探訪し瓦林氏の出自・系譜を、又同家の文書整理に携わっておられる曾根研三氏より、瓦林氏と末吉家との結びつきを知る史料として「末吉藤十郎家系図」の存在を教示していただき、瓦林文書が末吉家所蔵となった経緯を知る手掛を得たので、次に「瓦林系図」「末吉藤十郎家系図」を掲げることとする。









先に挙げた十四通の文書中に現われる人物で、⑥瓦林嶋田左衛門四郎基忠④瓦林新五郎については不明であるが、②瓦林平左衛門入道祖祐③瓦林平左衛門尉元定法師法名⑤瓦林平次郎⑦瓦林又四郎⑧瓦林兼刀左衛門尉⑨瓦林日向守⑩瓦林太久丸⑬瓦林出雲守について「瓦林系図」の人物と比定することができ、瓦林氏の系譜、強いては摂津・播磨の国人層間の血縁関係を知る有力な史料になると思われる。ただ残念なことに戦国期頃で切れており、末吉家との関係を知るには到らず瓦林氏側の関係史料からは明らかにすることはできない。末吉氏側の史料である前掲の「末吉藤十郎家系図」によると末吉利長の女子が瓦林道可に嫁し、その道可が利長の養子となり、道可の子息方右衛門（隆可）が、道可の後を受けて家を継いでいる。これらの事実より瓦林氏相伝の文書がこの時点で道可の養家先である末吉家に持参されたものと考えられる。尚、瓦林文書は「末吉瓦林文書」が全てではなく、吉井良尚氏所蔵の文和二年八月十五日付足利義詮軍勢催促状は本

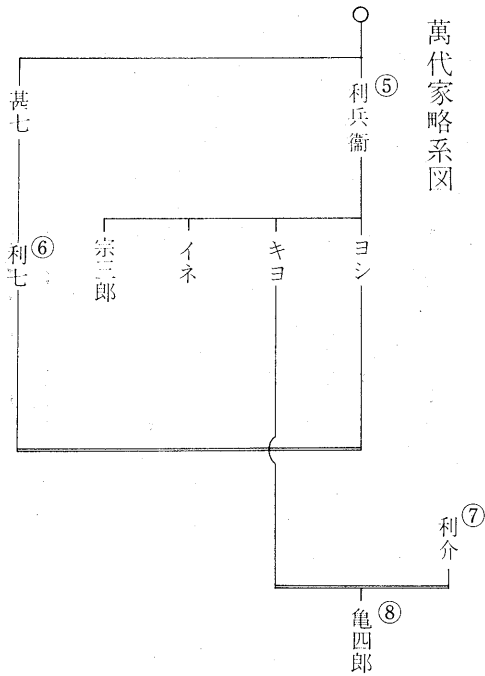
来瓦林文書であり、瓦林家より他家へ流失した文書の一点である。  
以上、末吉勘四郎氏所蔵文書調査における成果の報告である。(相田二郎氏  
「蒐影文書」として『平安遺文』に収録されている①寿永三年五月十八日付の源頼  
朝下文については別稿に譲ることとする。)

萬代亀四郎氏所蔵手鑑について

瀬野 精一郎

山口市大殿大路一〇萬代亀四郎氏所蔵手鑑は、昭和四十七年度編年史料第四  
部第一室(杉山博、瀬野精一郎、桑山浩然)による山口市内史料調査採訪のため、  
山口市水の上町五ノ二七洞春寺の文書を採訪中、たまたま同寺を訪れられた萬代  
亀四郎氏より、同家蔵の手鑑が存在することを聞き、急遽同家を訪れ、写真撮  
影を完了した。本手鑑については、既に東京国立博物館美術課長小松茂美氏によ  
って調査されており、その中の一部は同氏による「日本書流全史」上下に収録紹  
介されているが、本所ではこれまで未採訪のものであり、帰所後、本手鑑につい

萬代家略系図



て調査研究した結果、知り得た概要は左記の通りである。  
なお萬代家は江戸時代以来醤油醸造を家業としてこられた旧家であり、当主亀  
四郎氏は萬代家八代目に当られる。

手鑑の構成

本手鑑は法帖仕立で、伝光明皇后写経断簡を上限とし、江戸時代初期の文書を  
下限とする五十三名、六十四葉が収録されており、天皇、親王、公家、僧侶、武  
家の筆蹟で構成されているが、保存状態の関係で元来の配列順序は明確ではな  
い。以下収録文書の目録を編年にして示せば左記の通りである。

- |           |             |                |                    |            |            |              |        |                |          |                   |                   |            |          |            |           |            |          |                |           |           |   |
|-----------|-------------|----------------|--------------------|------------|------------|--------------|--------|----------------|----------|-------------------|-------------------|------------|----------|------------|-----------|------------|----------|----------------|-----------|-----------|---|
| 22        | 21          | 20             | 19                 | 18         | 17         | 16           | 15     | 14             | 13       | 12                | 11                | 10         | 9        | 8          | 7         | 6          | 5        | 4              | 3         | 2         | 1 |
| 永正五禪林鐘朔   |             | 十一月十日          | 三月五日               | 永和二年閏七月八日  | 貞治元年十一月二日  |              |        | 貞和七年二月廿一日      | 暦応五年二月三日 | 建武三年七月 日          | 建武三年四月廿九日         | 建武三年三月廿二日  |          | 元亨元年十一月十三日 |           | 五月三日       | 建長元年十月卅日 | 正嘉元年四月一日       | 建保三年正月廿四日 |           |   |
| 大徳寺東溪宗牧法語 | 東福寺愚極礼才七言律詩 | 足利義政感状(三沢彦四郎宛) | 足利義政軍勢催促状(小早川又太郎宛) | 足利義詮勲功地宛行状 | 伝後光厳天皇和歌懷紙 | 伝尊円法親王詩・和歌懷紙 | 足利直冬感状 | 高師直奉書(厚東駿川権守宛) | 藤原兼継軍忠状  | 少式頼尚施行状(弓削田六郎入道宛) | 足利尊氏軍勢催促状(飯嶋小三郎宛) | 伝後伏見天皇宸筆消息 | 後宇多上皇院宣案 | 伝伏見天皇和歌詠草  | 後深草上皇宸筆消息 | 鎌倉將軍家頼嗣 下文 | 明心願文断簡   | 伝明恵上人筆十六羅漢講式断簡 | 伝慈鎮和尚筆蹟   | 伝光明皇后写経断簡 |   |